



The TKF TIMES

高崎経済大学附属高校新聞部

4月20日(水)発行 4月号

事故の恐怖を知る

目指せ、交通事故0

4月13(火)14日(水)に交通安全に関する講義が行われ、全校生徒が参加した。また、校庭では交通に関する実技講習も行われ、1,2年生が安全な自転車走行について学習した。



危険を体感

校庭で行われた実技講習では、主に2種類の実習が行われた。

1つめは「8の字走行」と呼ばれるもので「8の字に引かれた線の内側を20人程度で走行する」という内容だ。このポイントになるのは線が交差する部分で、正面を横切る生徒に対する配慮がないと、衝突してしまう。一般道路の混合

安全な登下校を

講義は体育館一階で行われ、スクリーンに投影されたイラストを見ながら話が進められた。

主な内容は「交通ルールの確認」や「もし事故に遭ったときの対処法」などで、実際に事故に遭ってしまったケースや事故に遭った際の賠償責任など、具体的な例が多く挙げられていた。やはり交通安全には「焦ら



▲グッドタイミングを探せ

交通に必要なとされる状況判断と気遣い、思いやりの大切さを学ぶための実技だそう。もう一つは「反応回避」

ない」ことが重要とのこと。生徒たちに「10分前行動」を心がけて家を出るようになると呼びかけていた。生徒指導主事の武井先生に話を伺うと「左側通行や一時停止等の基本的な交通ルールの遵守が安全への近道です。特に気をつけてほしいのは駐車場から道路に出る機会をうかがっている車の前を通る時で、一旦停止して運転手の動向を確認してから通行するようにしてください」と語った。



▲一瞬の判断力が問われる

今回の実技を指導して下さった本田技研工業・安全運転普及本部の折笠博勝さんは「今回のコンセプトは安全に危険を体験することです。事故を起こさないような運転を、今後も心がけてください」と語った。

身近に潜む危険

本校における昨年度の交通事故発生件数が、例年を大きく上回った。そこで、ここでは通学路で交通事故が発生しやすい危険な場所を調査した。自身の安全のためにも、ぜひ参考にしてもらいたい。

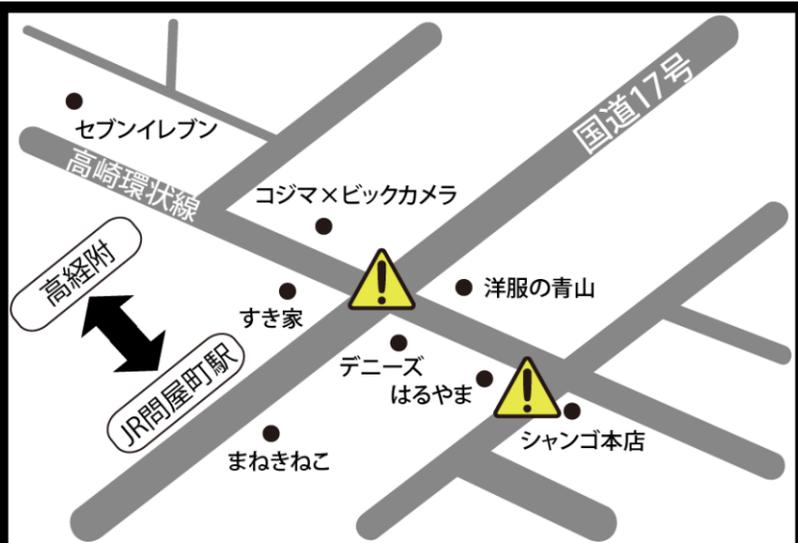
深刻な現状

本校の昨年度における交通事故発生数をご存じだろうか。なんと全体で46件である。また、内31件は1年生によるものであり、通学への不慣れなどが原因と思われるものが多かったようだ。交通事故の形態では、自転車・自動車との接触事故が過半数を占めた。

武井先生に昨年度の交通事故について伺うと「高崎環状線での事故が多く見ら

「ここ」に注意!

環状線付近で多発しているという交通事故だが、特にどのような場所に注意するべきなのだろうか。新聞



▲問屋町駅から通学する生徒がよく利用する交差点付近。車の通行量が多いため、曲がり角や交差点では注意が必要だ。

新たな制服に身をつつみ 第23回 入学式

4月6日(水)に、平成28年度・第23回高崎経済大学附属高校入学式が行われた。県立高校より2日早い日程となる挙行だったが、幸運にも本校横のサイクリングロードは桜がちょうど見頃となり、式前後には多くの生徒が記念撮影を行っていた。



▲記念に一枚

1つ目は、「緑町の交差点」である。地図の中央に位置にある危険マークの地点だ。この交差点は国道17号線と高崎環状線がぶつかるため、非常に交通量が多い場所である。以前もここで生徒が車と接触し、道路に投げ出された事例があるとのことだ。交差点を渡る際は後方から来る車に注意しながら渡ってほしい。

2つ目は、「はるやまの曲がり角」だ。問屋町駅ユ一ザーは通る機会が多いかもしれない。この曲がり角は路側帯内の幅が狭いため、反対側から来る歩行者や自転車と衝突する危険がある。また、この危険を回避するために大きく角を曲がってしまうと、建物によって曲がり角の先が見えにくいため、走行車と衝突する場合がある。この曲がり角を渡る際は、徐行しながら曲がることを忘れないようにしてほしい。



▲初々しさあふれる